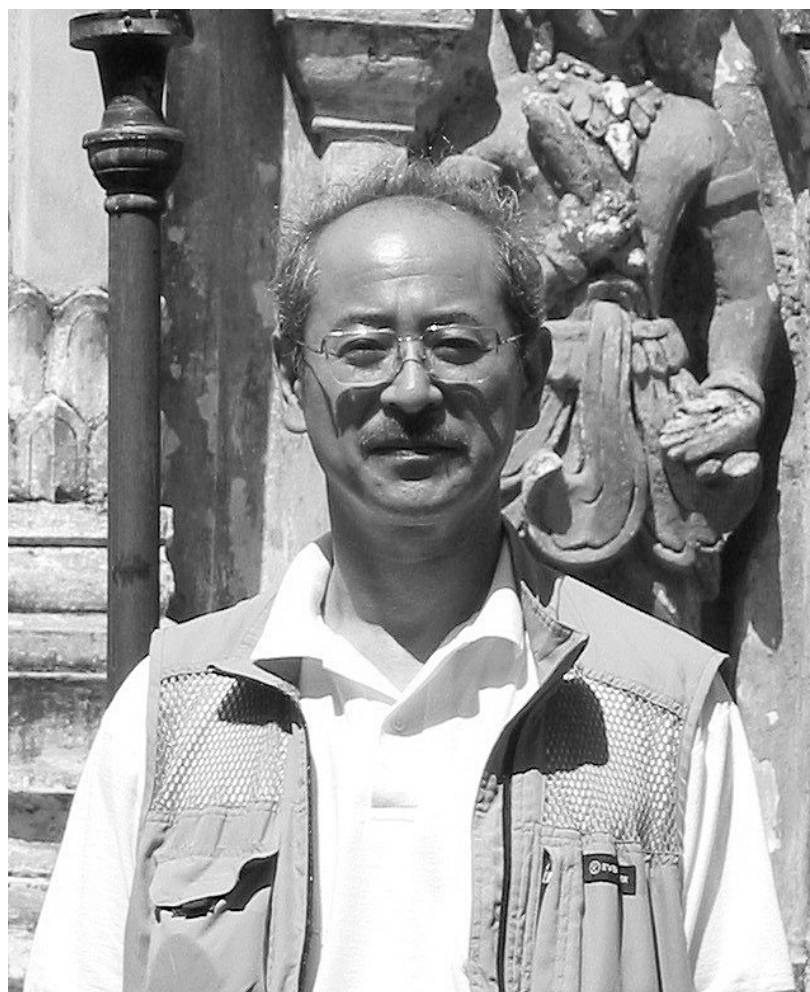


高坂宏一教授
退任記念号



高坂 宏一教授 近影

高坂先生のご退任に寄せて

杏林大学総合政策学部長

大川 昌利

高坂宏一先生は平成28年度末をもって杏林大学総合政策学部を定年退職された。高坂先生の杏林大学総合政策学部へのこれまでの多大なご貢献に対し、杏林社会科学研究所の本号を深甚なる感謝の思いとともに先生の退任記念号とさせていただきます。

高坂先生は東京大学医学部保健学科をご卒業後、東京大学大学院医学系研究科において博士（保健学）の学位を取得された。1981年4月に杏林大学保健学部保健学科の助手に就任、その後同学部における講師・助教授を経て1990年4月に教授に昇任され、同学部発展の礎を築かれた後、2001年4月より杏林大学社会科学部（総合政策学部の前身）教授に転じられ、爾来、大学院国際協力研究科教授を兼任されながら学部及び大学院の発展のためにご尽力いただいたところである。

高坂先生のご専門は人類生態学で、人間（個体・集団）の環境への適応や人間と環境との相互作用を考える学問であり、保健学と呼ばれる学問の一般的なイメージとはやや異なるかもしれない。先生の業績を拝見すると、インドネシアやボリビア等でフィールド・ワークを重ね蒐集したデータの分析によって当該社会の出生力、すなわち再生産過程の特徴点を明らかにするといった比較的初期の労作から、最新の知見やデータの解析をもとに、人口動態の変化やこれに伴う環境や社会に生じる様々な問題点を分析するといった近時の著作に至るまで、読者を人類社会の在り方にまで想到させる重要なご研究が多数を占めている。少子高齢化に伴う深刻な社会問題に直面しつつあるわが国の現状を省みるに、高坂先生のこれらのご研究が、もっと早くから各方面からの注目を集めていれば、あるいは問題解決に向

けた処方箋も容易に作成し得たかもしれないと思うとともに、今更ではあるが、先生の学問的課題の設定に際しての先見の明に感心するばかりである。

学界におかれては日本民族衛生学会会長を務められ、またいわゆる大学学務においても、長く大学基準協会評価委員や日本高等教育評価機構評価員の任にあり、高等教育のあるべき姿にも一家言をお持ちで、学部教授会や大学院研究科委員会の場でも、にこやかで温かく、されど誰もが耳を傾けざるを得ない貴重なご意見を多数頂戴したことは、忘れられない思い出である。

本号は、そうした高坂先生のご指導ご鞭撻に浴してきた杏林大学総合政策学部の教員諸氏による最近の論文を集めたものである。高坂先生におかれては、長年にわたる杏林大学へのご貢献に対する後輩からの感謝の証としてご高覧いただくとともに、今後も折に触れご指導いただく縁としていただければ幸いである。